

第1回岩手県河川・海岸構造物の復旧等における 環境・景観検討委員会を開催しました！

～ 地域の特性を生かした良好な景観形成等に向けて ～

河川課

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波から8ヶ月余りが経ちました。

現在、被災した沿岸被災地の河川・海岸構造物の災害査定が行われており、沿岸広域振興局土木部等が一丸となって対応しているところです。

これらの復旧施設の大半は、海沿いの連続的な大規模な構造物であり、復旧にあたっては、**地域の景観に及ぼす影響や自然環境に配慮することが重要**となります。

県では、これらの構造物の復旧等における環境・景観への配慮等の検討を一体的に行い、計画から施工まで一貫して自然環境との共生及び地域の特性を生かした良好な景観形成の保全・創出に資することを目的として「**岩手県河川・海岸構造物の復旧等における環境・景観検討委員会**」(以下「委員会」という。)を設置しました。

11月17日(木)に開催した第1回委員会では、今後の検討の進め方について審議し、その結果、県内沿岸地域を**4つのモデル地区に区分**し、国土交通省が策定した「河川・海岸構造物の復旧における景観配慮の手引き」の内容を基本としつつ、各地域の特性やまちづくり計画等を踏まえ、検討を進めていくことになりました。

今後、当委員会で審議を重ねながら、今年度末までに環境・景観についての配慮事項等を取りまとめていきます。



委員会の審議状況(岩手県公会堂)

検討対象モデル地区 4地区 は次のとおりです。

検討対象モデル	海岸、河川等の名称
砂浜海岸	高田海岸、気仙川(陸前高田市)
港湾海岸	大船渡港、盛川(大船渡市)
複数河川河口部	大槌川、小槌川(大槌町)
観光地周辺	鍬ヶ崎、閉伊川(宮古市)

委員は、「環境」「景観」「構造」の専門家から構成されています。

(敬称略)

委員名	専門	現職	備考
萱場 祐一	環境	独立行政法人土木研究所 自然共生研究センター長	
竹原 明秀		岩手大学人文社会科学部 教授	
平塚 明		岩手県立大学総合政策学部 教授	副委員長
芦澤 竜一	景観	芦澤竜一建築設計事務所 主宰	
平野 勝也		東北大学大学院情報科学研究科 准教授	
南 正昭	構造	岩手大学工学部 教授	委員長
諏訪 義雄		国土技術政策総合研究所 河川研究部海岸研究室長	